

(別添3)

## 【長野県伊那市】

### 校務DX計画

伊那市は学校教育の情報化の目指す姿を明確に示し、計画的に進めて行くため平成29年に初めて『学校情報化ビジョン2018』を策定した。同時に、実現のための3ヵ年計画により「ICT活用の日常化」「実践事例の共有」「人的整備」「ICT環境整備」などを着実に進め、伊那市教育の情報化を大きく発展させてきた。令和6年4月に策定した「学校教育の情報化ビジョン2024」には、校務DXについて次のように示している。

- 学校や教員の負担が増加し、子どもと向き合う時間が確保できないことの理由のひとつに、職員室でなければできない校務処理や保護者との連絡調整などが挙げられます。
- 文部科学省では全国的にもこうした課題があることを認識し、「校務」と「学習」両方の情報をクラウド上で一元管理し、効率的な業務運用がおこなえるよう支援のあり方について整備を始めています。
- 感染症や大規模災害だけでなく、子育てや介護をはじめとした教職員のライフスタイルも多様化しています。またUSBメディア等を使う情報の持出しによる情報漏えいリスクなど情報セキュリティ面の対策強化としても効果が期待できます。これからの学校運営において働き方の選択肢を増やし、安全で働きやすい環境の整備などによって教職員の支援をおこなっていくことが求められています。

これを受けて校務DXを推進するにあたり次のことに留意した取り組みを行うこととする。

#### 1 ビジョンの明確化

- (1) ICTを活用してどのような教育環境を実現していくかという全体的なビジョンを明確にする。
- (2) 学校教育の情報化ビジョンに示されているように教育目標に基づいたデジタルツールの活用方針を打ち出し、市内すべての学校で共有する。

#### 2 教職員のICTリテラシー向上とサポート

- (1) ICT機器やソフトウェアを使いこなすには、教職員のスキルを向上することが不可欠であることから、定期的な研修やGIGAスクールサポーター等によるサポート体制の充実が必要。
- (2) 教職員同士の情報やノウハウの共有も必要

### 3 保護者との連携

(1) 教育 DX には、地域や保護者の理解や連携、サポート体制が必要。

### 4 セキュリティの確保

(1) ICT 機器の使用には十分なセキュリティ対策を施すことが重要。

個人情報、データの管理、サイバー攻撃への対応策を講じる。

(2) 児童生徒、保護者に対する ICT リテラシー教育による情報セキュリティの保護、運用について理解を深めてもらう。

### 5 評価と改善

教育 DX は、ますます重要視されるが、現在は本格的な導入が始まったばかりであり、その運用や内容について常に評価と改善、チェックによる PDCA サイクルを回す日々の改善が重要となる。

教育 DX を推進するためには、教職員の能力向上やインフラ整備、地域・家庭との連携が不可欠である。運用にあたっては、セキュリティ対策や教職員への負担軽減、予算の確保などの課題を克服しながら継続的に取り組んでいくことが成功へのカギとなる。

最優先して取り組む改善策を次のとおり示す。

- 1 FAX・押印の原則廃止に取り組む
- 2 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃に取り組む
- 3 教職員による事務作業の軽減策として、RPA やノーコードによる自動入力作業のシステムを導入する。
- 4 校務情報系システム基盤（サーバー及び PC 等）のリプレイスにあたり、教員の働き方改革に適合したシステム導入を検討し、テレワーク環境の整備及び万全のセキュリティ対策、教員の利便性の向上を図りハード面から働き方改革を支援する計画を行い、実施していく。